

卒業生・保護者の皆様へ ～ 卒業証書授与式の式辞に代えて ～

卒業生、保護者の皆様に、改めてお祝いを申し上げます。高校卒業という、人生にとって大切な節目を予定通り迎えさせることができなかつたことを、心から残念に思っています。式辞でお伝えできなかったことや、式辞というフォーマルな形から解放されたからこそその本音も含め、今、私が思っていることを皆さんにお伝えしたいと思います。

保護者の皆様へ

3年間、本当にお疲れ様でした。様々な思い出が去来していることと思います。

かつて、「これで弁当づくりの苦労も終了！」と話されたお母さんがいました。大変なご苦労だったと思います。でも、お父さんの分まで、無理やり終了しないでくださいね。

子供を十五歳にして親元から離す決意をされた方々もいました。大きな決断だったと思います。子供達はたくさん苦労したと思います。しかし、その分、顔付きが遅くなっているのを感じます。大切な、人生経験だったのではないのでしょうか。

部活で土日もお子さんに対応し続けられた方もたくさんいました。生徒も大変ですが、実は親も大変でしたよね。「子供の追っかけができなくなる！」と話される方がたくさんいます。これから、誰を追いかけましょうか？

進路選択で、子供と一緒に悩んだ方も多かったと思います。大学受験システムも複雑になる一方で、「親として何をしてやればいいのか」と途方に暮れる方も多いのです。特に、他の生徒が続々と進路を決めていく中で、最後まで受験に取り組んだ生徒達は、親としても心配が多かったと思います。自習室で一人ひとりが離れて勉強している生徒同士が、一緒に弁当を食べながら励ましあっている姿を何度も見ました。結果はどうあれ、彼らは「同士」と呼べる仲間になったはずです。

保護者同士でも親しくなられた方々もいらっしゃると思います。学校行事に保護者OBとして参加もできます。今後とも末永いお付き合いをお願い申し上げます。

卒業生へ

3月1日のLHRが終わって、「卒業式をやってもらいたかった」という声をたくさん聞きました。改めて、残念であると同時に、そう思ってもらえることが心から嬉しく感じました。実は、一番悩んだのは「3年生を送る会」をどうするかでした。かつてはこの学校でもやっていた行事ですが、行事の見直しによって廃止した学校が多いのです。事前に、3年生担任団が生徒へのプレゼントのために極秘活動をしていることも聞いていました。撮影現場を偶然通りかかり、私は極秘の中身を見てしまいました。とても言葉では表現できない、抱腹絶倒！「これを君達に見せないでいられるか！」と悩んだのです。結果はコロナに負けてしまいました。担任団の君達に対する思いを感じてほしいと思います。君達が、担任団の芸達者ぶりに大笑いして涙を流す。そして、最後には別れを惜しんでまたポロリ。という姿を勝手に想像していました。コロナ騒ぎの前までは、「もう一度、全校生徒と **We will rock you** をシャウトしたい！」と願っていましたが、それは忘れましょう……。

3月1日も、短時間の中で何を優先するかを考えました。結論は、卒業式という儀式よりも、高校生活を共に暮らしたクラスの仲間や担任との最後の時間を大切にしてもらいたいということでした。この日は、高校生活の最後の日であると同時に、これからの一生の付き合いの始まりの日でもあると思います。

きっと、数年後には君達も感じると思います。人生は予定通り行かないことだらけ。後から思い出すのは、予定通りうまくいったことよりも、大変な思いやシンドかったことの方が強く心に残るものです。今回のことも、全国の同級生との共通の体験となり、令和元年度高校卒業生が、「混乱に動じない逞しき世代」と呼ばれるようになったら痛快です。

みんなとの思い出の一部は、「三重奏」にも書かせてもらいました。時間がある時に読んでくれたら幸せです。君達は本校の同窓生となり、北海道科学大学高等学校は母校となりました。いつでも遊びに来てください。後輩を応援し続けてください。また、会いましょう！

2020年3月3日

北海道科学大学高等学校
校長 橋本達也